

1 未来を切り拓く学力の育成

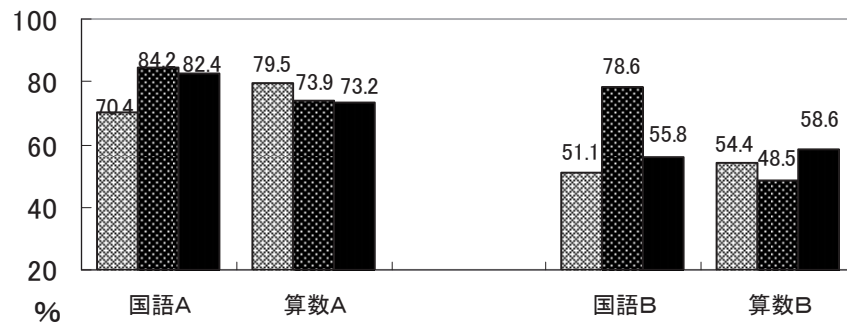
(1) 確かな学力を伸ばす教育の充実 (主に義務教育段階)

現状と課題

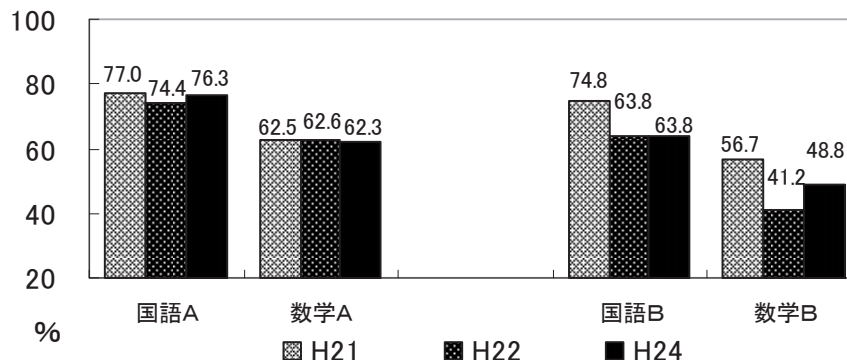
- グローバル化の進行など社会の変化の激しい時代の中で、基礎的・基本的な知識・技能に加え、それを活用する力、コミュニケーション能力等、子どもが自ら未来を切り拓いていく学力が必要になっています。
- 「全国学力・学習状況調査」によると、本県児童生徒の学力は基礎的・基本的な知識・技能に比べ知識・技能等を活用する力に課題が見られます。また、上位層の児童生徒数が比較的少なく、「伸びる力」をより伸ばせるよう個に応じた指導が求められています。
- 「教育に関するアンケート調査」(平成23年度)では中学校、高等学校の教員の授業方法に大きな違いが見られ、子どもたちの学びの連続性の面で課題が見られます。
- 社会環境の変化により子どもたち同士が交わり人間関係を形成する機会が減少する一方で、異なる価値観の他者と協力して課題解決する力が求められてきています。

図1-(1)-① 「全国学力・学習状況調査」の問題種類別の長野県の平均正答率

小学校 (6年)



中学校 (3年)

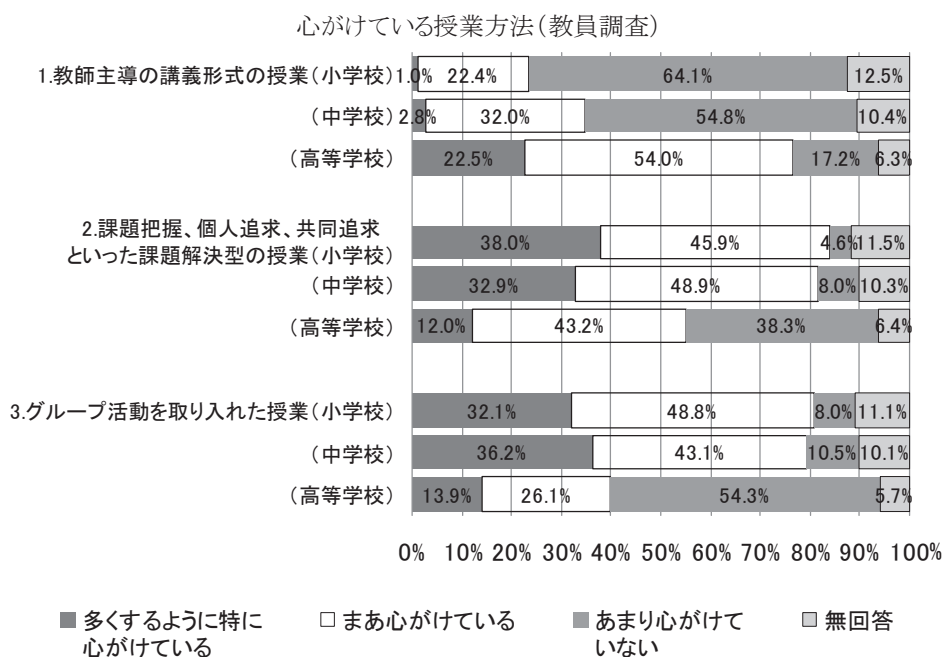


※国語A、算数・数学A：主として「知識」に関する問題

国語B、算数・数学B：主として「活用」に関する問題

文部科学省「全国学力・学習状況調査」

図1-(1)-② 教育に関するアンケート調査 (授業方法)



教育総務課「教育に関するアンケート調査(教員調査)」平成23年度

第1次計画の成果と課題

○ 確かな学力を育成するために、客観的なデータに基づくPDCAサイクル*による学力向上に取り組む小・中学校の増加を図りました。しかし、達成目標としている「基礎的・基本的な内容の定着度(小学生)」については、定着が不十分であったと考えられ、引続き基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に向けた授業改善の取組を推進する必要があります。

【第1次計画 目標達成見込】			
達成目標	目標値	H23 実績値	達成予測
基礎的・基本的な内容の定着度(小学生)	72.0%	56.4%	達成困難
基礎的・基本的な内容の定着度(中学生)	53.0%	55.3%	達成見込み

成果目標

- 児童生徒が基礎的・基本的な知識・技能、知識・技能を活用する力、課題探究力や人間関係形成力等の基礎的・汎用的能力*を身に付けられるようにします。
- 学ぶ意欲や目的意識をもった子どもを育てます。

測定指標

測定指標項目	現状値	平成29年度の目標	備考
「授業がよく分かる」と答える児童生徒（小6、中3）の割合	小・中学校 73.7% (平成24年度)	小・中学校 76.0%	文部科学省「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問紙の算数・数学に関する項目
基礎的基本的な内容の定着度が全国平均よりも高い児童生徒（小6、中3）の割合	小学校 61.8% 中学校 56.5% (平成24年度)	小学校 65.0% 中学校 60.0%	文部科学省「全国学力・学習状況調査」の主として知識に関する問題（算数A、数学A）で、全国平均より正答率が高い児童生徒の割合
基礎的基本的な内容の定着が十分でない児童生徒（小6、中3）の割合	小学校 5.4% 中学校 10.5% (平成24年度)	小学校 4.0% 中学校 8.0%	文部科学省「全国学力・学習状況調査」の主として知識に関する問題（算数A、数学A）で、平均正答率の半分以下の正答であった児童生徒の割合
「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均よりも高い児童生徒の割合	小学校 58.0% 中学校 53.8% (平成24年度)	小学校 60.0% 中学校 56.0%	文部科学省「全国学力・学習状況調査」の主として活用に関する問題（算数B、数学B）で、全国平均より正答率が高い児童生徒の割合

主な施策の展開

確かな学力を伸ばすための教育を充実するために、次のような取組を進めます。

① 学習習慣の確立と基礎学力の定着

- 小・中学校における30人規模学級編制など、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行うことにより、学習習慣・生活習慣の定着と基礎学力の向上を図ります。

【義務教育課】

② 知識・技能活用力、課題探究力の育成

- 30人規模学級の良さを生かして、子ども同士や様々な人々との関わりを深めながら

学んだり、実験や実習、体験的な活動など体を使って学んだりすることの充実を図ります。【義務教育課、教学指導課】

- 子ども同士の学び合い（グループ学習、討議形式等の参加型の授業）の機会を増やすことによって、知識技能を活用する力や課題を探究する力の育成を図ります。【教学指導課】



中学生学び合い

③ 継続的な学力向上の検証改善サイクルの確立

- 児童生徒の学力向上を目指して、各校が指導改善に取り組む上で参考となる情報を提供することにより、学力向上のためのPDCAサイクル*の確立を支援します。【教学指導課】

- 「全国学力・学習状況調査」などの結果を活用し、一人ひとりの子どもたちに応じた指導や授業の改善に取り組みます。【教学指導課】

④ 「伸びる力」を一層伸ばす指導内容の充実

- 伸びる力を一層伸ばせるよう、習熟の度合いに応じた指導、子どもの興味・関心に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習を推進します。【教学指導課】

⑤ 小中・中高の連続性ある指導

- 小中連携、中高連携の好事例の学校への普及啓発や、小中学校による合同研修会等への支援により、小中・中高の接続が一層円滑になるよう取り組みます。【義務教育課、高校教育課、教学指導課】

⑥ 学習の適切な評価

- 「授業がもっとよくなる3観点」*の充実を支援し、学習評価と指導の一体化を図り、学力の確かな定着を一層促進します。【教学指導課】
- 中学校における学習の成果が、高等学校の入学時においても適切に評価されるよう高等学校入学者選抜学力検査問題の改善を図ります。【教学指導課】

⑦ ICTの活用等による確かな学力の育成

- ICTを活用した一斉学習や個別学習、協働学習等による分かる授業の実践から、確かな学力を育成します。【教学指導課】
- 県立学校におけるICT利用環境を充実し、一人ひとりの子どもたちに応じた指導や授業の改善を進めます。【高校教育課、特別支援教育課】